

令和5年(2023)

# 第8回後期

お ごとおり れき し けんてい  
**小郡ふるさと歴史検定**  
一般・オープン編 問題

よみがな		点数
お名前		

## 検定を受けられるにあたって

- ① 問題は50問で、時間は60分です。順番通りに答えなければならないというきまりはありません。時間がかかりそうな問題を後まわしにしてどんどん先にすすんでください。
- ② 「ふるさと小郡のあゆみ」改訂版を見ながら、答えていいです。問題は、「ふるさと小郡のあゆみ」改訂版から作成しているので、答えは本の中にあります。文章だけでなく、人物の吹き出し、コラム、絵、地図、表、写真やそれらの説明なども見て答えをさがしてください。まちがいさがしをする問題もありますので、注意して答えてください。
- ③ 答案の提出については、一般・オープン編は、問題用紙か解答用紙のどちらか提出する方に答えを書いてください。解答用紙に転記する時間を終了後10分間とります。答えは、漢字でも仮名でもどちらで書いてもいいです。また、答え方が何通りかあっても1個書けばいいです。  
三択式の答え方は、問題用紙提出の場合は番号に○を付けてください。  
解答用紙提出の場合は、解答欄に番号を書いてください。
- ④ 早く終わったら見直しをして、それでも時間があまっていたら、アンケートにご協力ください。
- ⑤ 緊急の場合を除いて、電子機器の使用はご遠慮ください。
- ⑥ 途中で具合が悪くなられたり、トイレに行きたくなったり、空調の要望などありましたら遠慮なく 会場内職員にお知らせください。
- ⑦ 最後の問題までがんばって答えてください。

日 時：2023年12月23日(土) 10:00～

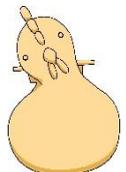
第1会場：小郡市埋蔵文化財調査センター

第2会場：小郡市生涯学習センター

第3会場：旧松崎旅籠油屋

ふるさと小郡のあゆみ普及活用推進委員会

小郡市埋蔵文化財調査センター



問題1 <sup>もんだい</sup> <sup>おごりし</sup> <sup>ゆいつ</sup> <sup>はなたてやま</sup> <sup>しぜん</sup> <sup>ほうこ</sup> 小郡市で唯一の花立山は、自然の宝庫といわれています。その  
<sup>はなたてやま</sup> <sup>ふもと</sup> <sup>かった</sup> <sup>が</sup> <sup>うらつみ</sup> <sup>めん</sup> <sup>しき</sup> <sup>はなばな</sup> <sup>みずべ</sup> 花立山の麓にあり且田ヶ浦堤に面していて、四季の花々や水辺の  
<sup>ふうけい</sup> <sup>たの</sup> <sup>こうえん</sup> <sup>なまえ</sup> <sup>なん</sup> 風景を楽しむことができる公園の名前は、何というでしょう。

公園



問題2 <sup>いま</sup> <sup>ねん</sup> <sup>いじょうまえ</sup> <sup>えど</sup> <sup>じだい</sup> <sup>まち</sup> <sup>ところ</sup> 今から150年以上前の江戸時代には、町とよばれた所が2つ  
ありました。一つは、<sup>ひと</sup> <sup>しょうか</sup> <sup>みせ</sup> 商家（店）があつまった小郡町ですが、も  
う一つの町は、<sup>まち</sup> <sup>たびびと</sup> <sup>やす</sup> <sup>と</sup> <sup>はたご</sup> 旅人が休んだり泊まったりする旅籠があつまった  
<sup>しゆくばまち</sup> <sup>な</sup> <sup>な</sup> <sup>まち</sup> 宿場町だったところです。そこは何町とよばれていたでしょう。

町



問題3 <sup>じょうもんじだい</sup> <sup>おごり</sup> <sup>た</sup> <sup>ちいき</sup> <sup>こうりゅう</sup> <sup>しめ</sup> <sup>ひょうめん</sup> 縄文時代の小郡と他の地域の交流を示すものとして、表面に  
<sup>かざん</sup> <sup>ふく</sup> <sup>どき</sup> <sup>おごりし</sup> <sup>いせき</sup> <sup>み</sup> 火山ガラスが含まれる土器が小郡市のある遺跡で見つかりました。  
<sup>みなみきゅうしゅう</sup> <sup>つく</sup> <sup>おごり</sup> <sup>も</sup> <sup>かんが</sup> <sup>どき</sup> 南九州で作られ小郡に持ちこまれたと考えられる、この土器が  
<sup>はっけん</sup> <sup>いせき</sup> <sup>なまえ</sup> <sup>なん</sup> 発見された遺跡の名前は、何でしょう。

遺跡

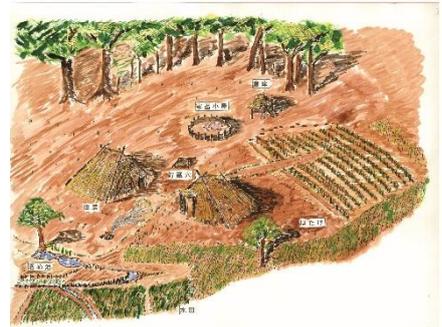


問題4 <sup>やよいじだい</sup>弥生時代に<sup>せいどう</sup>青銅や<sup>てつ</sup>鉄などの<sup>きんぞくき</sup>金属器が、<sup>とらいじん</sup>渡来人によって<sup>つく</sup>作られ<sup>はじめ</sup>めると、<sup>ちょうせんはんと</sup>朝鮮半島のものか<sup>にほん</sup>日本のものかわからないものが出てきます。<sup>だいひょうてき</sup>代表的なものに<sup>みつさわきたまつ</sup>三沢北松尾口遺跡で<sup>しゅつど</sup>出土したあるものが<sup>あ</sup>挙げられますが、それは何でしょう。



問題5 <sup>やよいじだい</sup>弥生時代のムラがそのまま<sup>はくつ</sup>発掘された<sup>みつさわふつがうらいせき</sup>三沢蓬ヶ浦遺跡では、<sup>いえ</sup>家の<sup>よこ</sup>横に<sup>はたけ</sup>畑があり、<sup>すいでん</sup>水田と同じ<sup>おな</sup>稲が<sup>いね</sup>植えられていました。何のため<sup>なん</sup>に<sup>すいでん</sup>水田とは別に<sup>べつ</sup>畑で<sup>はたけ</sup>稲作を<sup>いなさく</sup>していたと<sup>かんが</sup>考えられるでしょう。

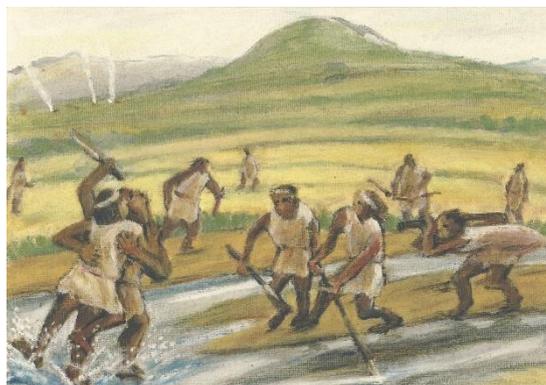
- ① <sup>かちくよう</sup>家畜用のエサとして<sup>つく</sup>作っていたため
- ② <sup>いえ</sup>家の近くで<sup>ちか</sup>楽に<sup>らく</sup>米を<sup>こめ</sup>収穫する<sup>しゅうかく</sup>ため
- ③ <sup>しゅだん</sup>いろんな<sup>しよくりょう</sup>手段で<sup>かくほ</sup>食料を<sup>かんが</sup>確保できるように<sup>かんが</sup>するため



問題6 <sup>おごりし</sup>小郡市のいくつかの<sup>いせき</sup>遺跡では、<sup>ちょうせんはんと</sup>朝鮮半島から<sup>うつす</sup>移り住んできた<sup>ひと</sup>人<sup>たち</sup>達（<sup>とらいじん</sup>渡来人）が<sup>ちょうせんはんと</sup>朝鮮半島で<sup>つか</sup>使っていた<sup>どき</sup>まの<sup>むもんどき</sup>土器（<sup>むもんどき</sup>無文土器）が<sup>はくつ</sup>発掘されることがあります。<sup>むもんどき</sup>無文土器の<sup>つぼ</sup>壺には、<sup>にほん</sup>日本の<sup>やよいどき</sup>弥生土器と<sup>ちが</sup>違い、あるものが<sup>つ</sup>付いていますが、<sup>なに</sup>何が<sup>つ</sup>付いているのでしょうか。

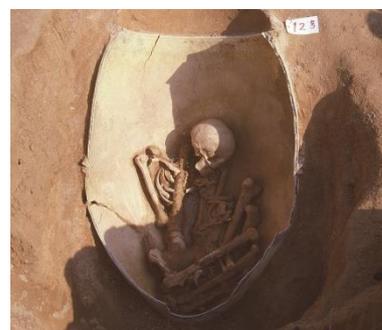


問題7 おごおりし ちくぜんまち みねいせき す ひとびと  
 とうそつ あら すいでん てき まも  
 統率して、新たな水田をつくったり、敵からムラを守ったりする  
 やよい じ だい しゅちよう はか み はか  
 弥生時代の首長（リーダー）の墓が見つかりました。その墓から  
 ちゅうごくせい かがみ てつ ぶき なに て  
 は中国製の鏡や鉄の武器のほかに、何が出てきたでしょう。



問題8 よこぐまきつねづかい せき やよい じ だい あらせ ころ ひと はか はっけん  
 横隈狐塚遺跡では、弥生時代の争いで殺された人の墓も発見さ  
 れました。とうじ あらせ はか なに み  
 当時争いがあったことは、墓から何が見つかったこと  
 でわかるでしょう。

- ① あし うで きず のこ じんこつ み  
足や腕に傷が残った人骨が見つかった
- ② ぬの つつ じんこつ み  
布に包まれた人骨が見つかった
- ③ ぶき も ひと え み  
武器を持った人の絵が見つかった



問題9 げんざい みくに おかだんち なか ほうまんがわじょうか ふきん  
 現在の三国が丘団地の中にある宝満川浄化センター付近にあ  
 ったのが、おごおりさいだい ぜんぼうこうえんふん みくに はな ごうふん  
 小郡最大の前方後円墳である三国の鼻1号墳です。そ  
 ぜんちよう なんメートル  
 の全長は何 m あったでしょう。



問題 10 やよいどき ねんど ひも いた つ あ かたち つく の や  
弥生土器は粘土の紐や板を積み上げて形を作り、野焼きをし  
たものですが、こふんじだい おな や かた つく やよいどき  
古墳時代にこれと同じ焼き方で作られ、弥生土器  
よりもうす ていねい つく どき  
よりも薄く丁寧に作られた土器があります。この土器の名前は  
何というでしょう。

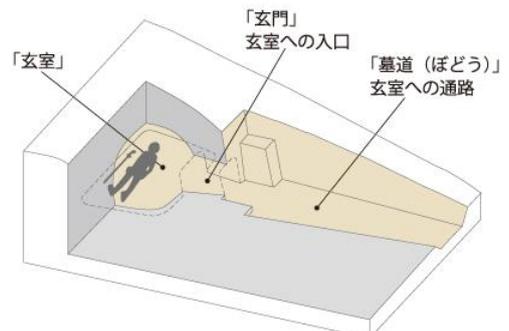


問題 11 よこぐまやま こふん ぜんちようやく メートル ぜんぼうこうえんふん こふん  
横隈山古墳は全長約31.6mの前方後円墳です。この古墳  
は、わかし あた おさ しゅちよう はか  
昔この辺りを治めていた首長の墓だと考えられますが、  
いま  
からなんねん まえ  
何年ごろ前のことでしょう。

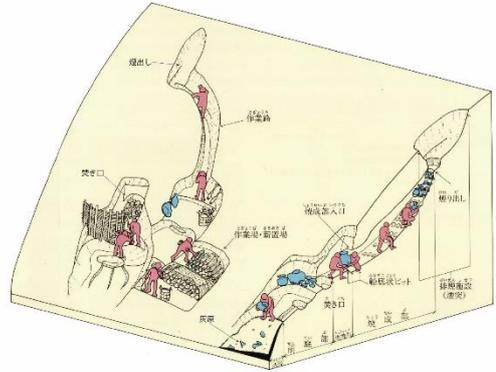
- ① やく ねんまえ  
約1,570年前
- ② やく ねんまえ  
約2,000年前
- ③ やく ねんまえ  
約316年前



問題 12 こふんじだい おごおりし みくにきゅうりよう はなたてやま おお み  
古墳時代、小郡市の三国丘陵と花立山で多く見つかっている  
みぎした ず まいそうしせつ なん  
右下の図のような埋葬施設を、何というでしょう。



問題 13 古墳時代こふんじだいの中なかごろに、朝鮮半島ちょうせんはんとうから新しい文化あたらしいぶんかが持ちこまれて、窯かまで焼く須恵器すえきが作られるようになりました。しかし、失敗しっばいすることもあって、失敗しっばいした須恵器すえきは捨てられていました。窯かまのどこどこに捨てられていたでしょう。



問題 14 平安時代へいあんじだいに書かれた『和名抄』わみょうしょうという書物しょもつには、当時の御原郡とうじみはらぐんには4つの郷ごうがあったことが書かれています。長栖ながす・板井いたい・川口かわぐちと、あと1つの郷ごうは何なんと書かれていたでしょう。

- ① 干潟ひかた
- ② 日形ひかた
- ③ 日方ひかた

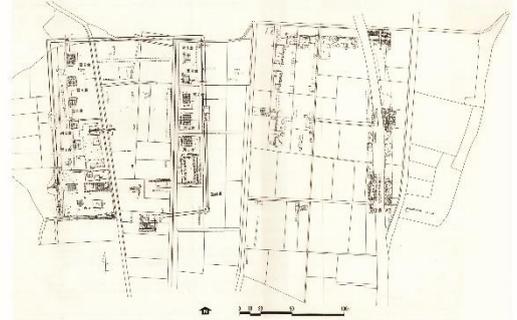


問題 15 上岩田遺跡かみいわたいせきやその周辺しゅうへんの遺跡いせきからは、古代こだいの役人やくにんの生活せいかつがわかるいろいろなものが見つかっています。右下みぎしたの出土品しゅつどひんも古代こだいの役人やくにんの生活せいかつがわかるものひとの一つですが、これは何なんでしょう。



問題 16 <sup>きゅうみ はらぐん はん い</sup> 旧御原郡の範囲には、<sup>かみいわた いせき</sup> 上岩田遺跡・<sup>おごりかんが いせき</sup> 小郡官衙遺跡・<sup>しもたかはしかん</sup> 下高橋官衙遺跡と、<sup>かんが いせき</sup> 3つの官衙遺跡（<sup>ひょう ぐん</sup> 評・郡の<sup>やくしょ</sup> 役所の<sup>あと</sup> 跡）が<sup>そんざい</sup> 存在していますが、<sup>せい き こうはん</sup> 7世紀後半に<sup>もっと</sup> 最も<sup>さか</sup> 栄えた<sup>かんが</sup> 官衙はどこでしょう。

遺跡



問題 17 <sup>おごりし いのうえ</sup> 小郡市井上にあったと<sup>かんが</sup> 考えられてきた<sup>こだいじいん</sup> 古代寺院「<sup>いのうえはいじ</sup> 井上廃寺」は、<sup>はくつちよう さ</sup> 発掘調査と<sup>しゅうへん</sup> 周辺の<sup>ちけい</sup> 地形、そして<sup>かわら ひろ</sup> 瓦を拾うことができる<sup>はん い</sup> 範囲から、<sup>げんざい</sup> 現在では<sup>なんぼく</sup> 南北180m、<sup>とうざい</sup> 東西120mが<sup>てら</sup> 寺の<sup>はん い</sup> 範囲ではないかと<sup>かんが</sup> 考えられています。<sup>へいせい</sup> 平成11年（1999）の<sup>はくつちよう さ</sup> 発掘調査で<sup>み</sup> 見つかったのは<sup>なん</sup> 何でしょう。



問題 18 <sup>こだい</sup> 古代の<sup>りつりよう じ だい</sup> 律令時代、<sup>おごり</sup> 小郡が<sup>ぞく</sup> 属していた<sup>ちくごのくに</sup> 筑後国の<sup>ちょうようぶつ</sup> 調庸物（<sup>ぜい</sup> 税の<sup>いっ</sup> 一種）には、<sup>しゅ</sup> どのようなものがあつたでしょう。



問題 19 <sup>めいじ</sup> 明治44年 <sup>ねん</sup> (1911) に「<sup>おおはら</sup>大原古<sup>せんじょう</sup>戦場碑」と刻まれた大きな石の<sup>きねん</sup>記念碑が小郡<sup>おごり</sup>に建てられました。その記念碑は、<sup>いまなん</sup>今何という<sup>こうえん</sup>公園の中にあるでしょう。

公園



問題 20 <sup>せんらん</sup> 戦乱に<sup>あ</sup>明け暮れた<sup>く</sup>南北朝時代、<sup>なんぼくちよう</sup>南朝方の<sup>じ</sup>黒木氏や<sup>だ</sup>調一族など<sup>なんちよう</sup>筑後の<sup>ぶし</sup>武士たちは、<sup>さんち</sup>山地を<sup>きよてん</sup>拠点にして<sup>かつどう</sup>活動していました。何という<sup>さんち</sup>山地に<sup>きよてん</sup>拠点を<sup>つくって</sup>つくっていたでしょう。

山地



問題 21 <sup>てんせい</sup> 天正14年 <sup>ねん</sup> (1586) 7月、<sup>が</sup>島津軍は<sup>しまづぐん</sup>筑後国に<sup>ちくごのくに</sup>攻め込み、<sup>せ</sup>大友氏<sup>こ</sup>に<sup>おおともし</sup>味方する<sup>おおほ</sup>武将たちと<sup>み</sup>戦いました。この時の<sup>おおほ</sup>戦いで、<sup>み</sup>大保の<sup>おおほ</sup>御<sup>み</sup>勢<sup>おおほ</sup>大<sup>おおほ</sup>霊<sup>おおほ</sup>石<sup>おおほ</sup>神社<sup>おおほ</sup>をはじめ、<sup>おごり</sup>小郡の<sup>しゅうらく</sup>集落や<sup>じしゃ</sup>寺社<sup>や</sup>は、<sup>はら</sup>焼き払われたと<sup>おごり</sup>いいます。当時<sup>とう</sup>本<sup>ほん</sup>拠<sup>きよ</sup>地<sup>ち</sup>としていた<sup>ひ</sup>肥前国<sup>おじょう</sup>勝尾城<sup>りょう</sup>や、<sup>ち</sup>領地<sup>も</sup>を持っていた<sup>おごり</sup>小郡<sup>しまづぐん</sup>をめぐって<sup>たたか</sup>島津軍と<sup>ぶしょう</sup>戦った<sup>ぶしょう</sup>武将はだれでしょう。



問題 22 <sup>しょうへい</sup> 正平14年・<sup>ねん えんぶん</sup> 延文4年 (1359) に<sup>おごおり</sup> 小郡で<sup>お</sup> 起こった<sup>おおほぼる</sup> 大保原 (大原) <sup>はら</sup> 合戦は、<sup>かつせん</sup> 南朝方・<sup>なんちようがた</sup> 北朝方<sup>ほくちようがたりようぐん</sup> 両軍<sup>あ</sup> 合わせて<sup>すうまんにん</sup> 数万人規模の<sup>きぼ</sup> 戦いに<sup>たか</sup> なりました。この<sup>たか</sup> 戦いの<sup>あと</sup> 後、<sup>な</sup> 亡くなった<sup>ひと</sup> 人を<sup>くよう</sup> 供養<sup>た</sup> するために<sup>た</sup> 建て<sup>つた</sup> られた<sup>てら</sup> と<sup>なん</sup> 伝わる<sup>てら</sup> 寺は何という寺でしょう。

寺



問題 23 <sup>ちゆうせい</sup> 中世には<sup>しゆるい</sup> いろいろな<sup>はか</sup> 種類の<sup>おごおり</sup> 墓<sup>みぞ</sup> がありました。小郡では<sup>し</sup> 溝で<sup>かく</sup> 四角<sup>かこ</sup> に<sup>なか</sup> 囲んで、その<sup>つち</sup> 中を<sup>も</sup> 土盛り<sup>も</sup> して、その<sup>つち</sup> 盛り土<sup>なか</sup> の<sup>か</sup> 中<sup>か</sup> に<sup>そう</sup> 火葬<sup>ほね</sup> した<sup>ほ</sup> 骨<sup>ほ</sup> を<sup>ほうむ</sup> 葬<sup>はくつ</sup> る<sup>い</sup> ものが<sup>せき</sup> 発掘<sup>なまえ</sup> されました。その<sup>なん</sup> 遺跡<sup>なん</sup> の<sup>なん</sup> 名前は何というでしょう。

遺跡



問題 24 <sup>かみいわた</sup> 上岩田の<sup>おいまつじんじゃ</sup> 老松神社<sup>だいざ</sup> には、<sup>げんとく</sup> 台座<sup>ねん</sup> に<sup>きざ</sup> 元徳二年 (1330) と<sup>きざ</sup> 刻<sup>ひぶん</sup> まれた<sup>ひぶん</sup> 五重石塔<sup>ひぶん</sup> が<sup>ひぶん</sup> 建<sup>ひぶん</sup> っています。また、<sup>きざ</sup> 石<sup>ひぶん</sup> に<sup>ひぶん</sup> 刻<sup>ひぶん</sup> まれた<sup>ひぶん</sup> 碑文<sup>ひぶん</sup> によると、<sup>ひぶん</sup> これは、<sup>ひぶん</sup> 何を<sup>ひぶん</sup> 願<sup>ひぶん</sup> って<sup>ひぶん</sup> 建<sup>ひぶん</sup> てる<sup>ひぶん</sup> た<sup>ひぶん</sup> もの<sup>ひぶん</sup> でしょう。

- ① <sup>ひとびと</sup> 人々の<sup>しあわ</sup> 幸せ
- ② <sup>かね</sup> お金<sup>かね</sup> が<sup>かね</sup> た<sup>かね</sup> まり<sup>かね</sup> ます<sup>かね</sup> よう<sup>かね</sup> に
- ③ <sup>みず</sup> 水<sup>みず</sup> に<sup>みず</sup> こ<sup>みず</sup> ま<sup>みず</sup> ら<sup>みず</sup> ない<sup>みず</sup> よう<sup>みず</sup> に



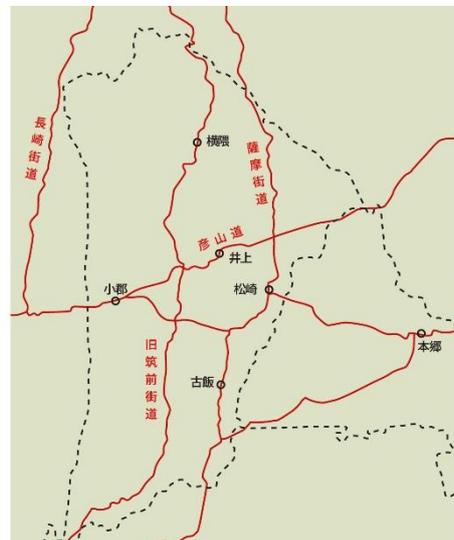
問題 25 <sup>くるめはん</sup>久留米藩は<sup>りょうない</sup>領内8郡を4つに分けました。<sup>みはらぐん</sup>御原郡と<sup>みいぐん</sup>御井郡を  
<sup>あ</sup>合わせた<sup>ちいき</sup>地域は何とよばれていたでしょう。



問題 26 <sup>かんぶん</sup>寛文8年(1668)、<sup>くるめはん</sup>久留米藩から分かれて<sup>まつざきはん</sup>松崎藩ができました。  
<sup>まつざきはん</sup>松崎藩主<sup>しゅ</sup>有馬豊範が住んだ<sup>やかた</sup>館(城)は、<sup>いま</sup>今の<sup>まつざき</sup>松崎のどのあたりにあったでしょう。

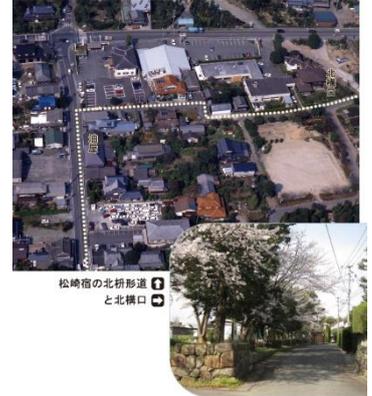


問題 27 <sup>くるめりょう</sup>久留米領では、<sup>ひと</sup>人の<sup>こうりゅう</sup>交流が盛んなことから<sup>ごらく</sup>娯楽を<sup>ていきょう</sup>提供する<sup>げい</sup>芸  
<sup>のうしゅうだん</sup>能集団も<sup>み</sup>見られました。<sup>いま</sup>今の<sup>おごおり</sup>小郡市域にあった<sup>げいのうしゅうだん</sup>芸能集団は何座  
といたたでしょう。



問題 28 <sup>げんろく ねん</sup> 元禄5年(1692)、<sup>えど お</sup>江戸へ向かう途中に<sup>とちゅう まつざき とお</sup>松崎を通り、「・・・  
<sup>しょうぐん ちよかつち</sup>将軍の直轄地となる<sup>まつがさき</sup>松ヶ崎。<sup>こ おお おお</sup>150戸の大きい村である」と旅  
<sup>こうにっき か がいこくじん</sup>行日記に書いた外国人はだれでしょう。

- ① ケンペル
- ② シーボルト
- ③ ペリー



問題 29 <sup>くる めはん ざいせい</sup> 久留米藩の財政は、<sup>だい だいはんしゅありま のりふさ</sup>第6代藩主有馬則維のころには、<sup>しんこく</sup>深刻なも  
のとなり、<sup>しょうとく ねん</sup>正徳2年(1712)に<sup>ぜい かいかく おこな</sup>税の改革が行われました。改革  
によって<sup>のうみん ふたん ふ</sup>農民の負担が増えて<sup>ふまん たか</sup>不満が高まり、<sup>きょうほう</sup>享保13年(1728)  
に<sup>いっき お</sup>一揆が起きました。このとき<sup>のうみんがわ</sup>農民側にとっては、<sup>ひとり ぎせいしゃ</sup>一人の犠牲者  
も<sup>だ</sup>出さずに<sup>ゆうり じょうけん</sup>有利な条件で<sup>いっき かいけつ あ</sup>一揆の解決に当たった、<sup>くる めはんがわ じん</sup>久留米藩側の人  
<sup>ぶつ</sup>物はだれでしょう。

- ① <sup>かろういなつぐいなばまささね</sup>家老稻次因幡正誠
- ② <sup>はんしゅありま のりふさ</sup>藩主有馬則維
- ③ <sup>そうぶぎょうほんじょうかずえ</sup>惣奉行本庄主計



問題 30 <sup>ほうれき いっき</sup>宝暦の一揆では、<sup>おお</sup>多くの人達が<sup>ひとたち きび</sup>厳しい処罰を受けています。そ  
の<sup>しょうばつ う</sup>処罰を受けた人の中で、<sup>ひと なか</sup>ただ一人<sup>ひとり しざい</sup>死罪となった<sup>おおじょうや</sup>大庄屋がいま  
<sup>じんぶつ</sup>した。その人物はだれでしょう。

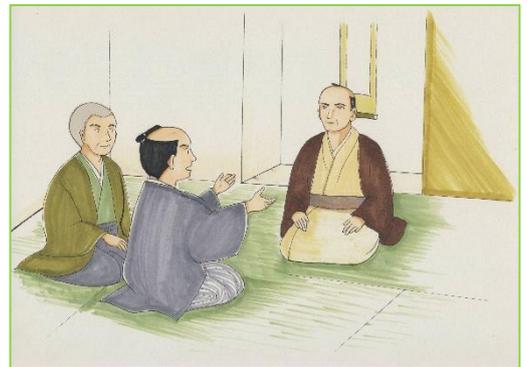


問題 31 <sup>さつ ま かい どう</sup> 薩摩街道は、<sup>えん ぼ う</sup> 延宝6年(1678)、<sup>さん きん こう たい どう ろ</sup> 参勤交代道路として<sup>さだ</sup>定められてから、<sup>さつ ま はん</sup> 薩摩藩(島津)、<sup>く ま と はん</sup> 熊本藩(細川)、<sup>ほ そ か わ</sup> 柳川藩(立花)などの<sup>きゅう しゅう</sup>九州の大名が通りました。久留米藩領内の一番北にある宿場<sup>まち</sup> 町を何宿というでしょう。

宿



問題 32 <sup>く る め はん だい</sup> 久留米藩第8代藩主有馬頼貴は、<sup>だ い はん し ゅ あり ま より た か</sup> 樺島石梁に藩校再建を命じました。<sup>せ き りょう</sup> 石梁の兄渡辺貞山を仲立ちとして藩校建設のための<sup>し</sup>資金を<sup>けん きん</sup> 献金した、<sup>い の う え む ら</sup> 井上村の人物はだれでしょう。



問題 33 <sup>え ど じ だ い</sup> 江戸時代久留米藩のある<sup>はん し</sup> 藩士は、<sup>い ま</sup> 今の<sup>お ご お り し</sup> 小郡市をたびたび<sup>じ ゅん かい</sup> 巡回しており、<sup>み つ さ わ</sup> 三沢で<sup>う ん も</sup> 雲母の出る<sup>で</sup> 所を<sup>と ころ</sup> 見たり、<sup>は な た て や ま</sup> 花立山に登ったりして<sup>の ぼ</sup> います。また、<sup>ひ め こ そ じ ん じ ゃ</sup> 媛社神社(七夕神社)にも<sup>た な ば た じ ん じ ゃ</sup> 関心をもち、「<sup>か ん し ん</sup> 姫社考」<sup>も</sup> という<sup>ひ め こ そ こ う</sup> 論文を書いています。その<sup>ろ ん ぶん</sup> 人物はだれでしょう。



問題 34 <sup>めいじせいふ</sup> 明治政府が採用した <sup>しゅうきょうせいさく</sup> 宗教政策により <sup>めいじじだいはじ</sup> 明治時代初めに <sup>おこと</sup> 起きた事柄として、まちがっているものはどれでしょう。

① <sup>いのうえむら</sup> 井上村の <sup>いもとじんじゃ</sup> 井本神社の <sup>かんのんぞう</sup> 観音像が <sup>てつきよ</sup> 撤去された。

② <sup>あた</sup> 新しい神社である <sup>じんじゃ</sup> 大原神社が <sup>おおはらじんじゃ</sup> つくられた。

③ <sup>きょう</sup> キリスト教を <sup>しんこう</sup> 信仰すること <sup>みと</sup> が認められ、<sup>いまむらてんしゅうどう</sup> 今村天主堂(教会堂)が <sup>きょうかいどう</sup> 建てられた。



問題 35 <sup>めいじねん</sup> 明治4年(1871)の <sup>はいはんちけん</sup> 廃藩置県により、<sup>おごりし</sup> 小郡市は、<sup>くるめけん</sup> 久留米県をへ <sup>みずまけん</sup> 経て <sup>いちぶ</sup> 三潁県の一部となりました。<sup>みずまけん</sup> 三潁県について <sup>ただ</sup> 正しい <sup>せつめい</sup> 説明はどれでしょう。

① <sup>きゅうはんめい</sup> 旧藩名をうけついだ。

② <sup>けんちょう</sup> 県庁は <sup>とうしよいま</sup> 当初今の <sup>くるめし</sup> 久留米市に <sup>お</sup> 置かれた。

③ <sup>いま</sup> 今の <sup>さがけん</sup> 佐賀県が <sup>いちじき</sup> 一時期 <sup>がっぺい</sup> 合併されていた。



問題 36 <sup>めいじねん</sup> 明治9年(1876)、<sup>いま</sup> 今と同じ <sup>おな</sup> 範囲の <sup>はんい</sup> 福岡県が <sup>ふくおかけん</sup> 成立しましたが、<sup>せいりつ</sup> 成立から <sup>ちくご</sup> まもなく、<sup>いっこく</sup> 筑後一國を <sup>ふくおかけん</sup> 福岡県から <sup>ぶんりどくりつ</sup> 分離独立させる <sup>ぶんけん</sup> 「分県運動」が <sup>お</sup> 起きました。その <sup>げんいん</sup> 原因となった <sup>もんだい</sup> 問題は <sup>なん</sup> 何でしょう。



問題 37 <sup>あじさかむらみつゆき</sup> 味坂村光行に<sup>う</sup> 生まれた<sup>さ さ き しょうぞう</sup> 佐々木正蔵は、<sup>めい じ ねん</sup> 明治23年（1890）、<sup>いま</sup> 今の<sup>お ごと り し ふく せんきょく</sup> 小郡市を含む選挙区で<sup>さいしよ</sup> 最初の<sup>こっかいぎいん</sup> 国会議員になりますが、<sup>まえ</sup> その前<sup>ふくおかけんかいぎいん</sup> は福岡県会議員でした。<sup>さ さ き しょうぞう</sup> 佐々木正蔵は、<sup>けんかいぎいん</sup> 県会議員になる<sup>まえ</sup> 前から、<sup>かつどう</sup> どんな活動をしていたでしょう。



- ① <sup>じゆうみんけんうんどうか</sup> 自由民権運動家として<sup>かつやく</sup> 活躍した。
- ② <sup>だいにっぽんちすいかい</sup> 大日本治水会を<sup>けっせい</sup> 結成した。
- ③ <sup>いけんしよ</sup> 意見書「<sup>ちすい</sup> 治水に<sup>かん</sup> 関する<sup>けんぎ</sup> 建議」を<sup>せいふ</sup> 政府に<sup>ていしゆつ</sup> 提出した。

問題 38 <sup>え どの じ だい</sup> 江戸時代から<sup>めい じ</sup> 明治の<sup>はじ</sup> 初めにかけて、<sup>お ごと り</sup> 小郡は<sup>はぜろうさんぎょう</sup> 蠶糸産業が<sup>たいへんさか</sup> 大変盛んでしたが、<sup>すいたい</sup> 衰退して<sup>はぜろうさんぎょう</sup> いきます。蠶糸産業が<sup>ふ</sup> 振る<sup>げん</sup> わなくなった<sup>いん</sup> 原因の一つに、<sup>ひと</sup> 政府が<sup>せいふ</sup> お金を<sup>かね</sup> 出して<sup>だ</sup> 茶や<sup>ちゃ</sup> 桑の<sup>くわ</sup> 木を<sup>き</sup> 植え<sup>う</sup> させた<sup>いん</sup> ことがあります。<sup>せいふ</sup> 政府が<sup>せいふ</sup> そのようなことを<sup>せいふ</sup> したのは<sup>せいふ</sup> なぜでしょう。

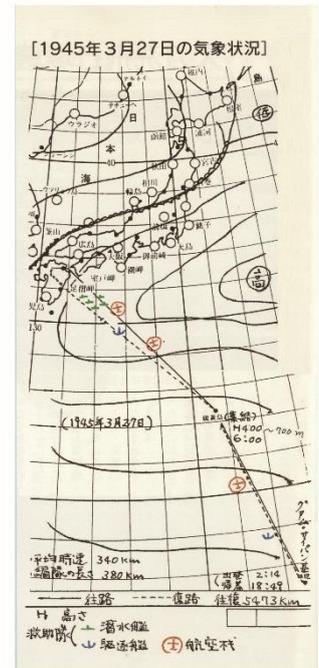


問題 39 <sup>いま</sup> 今の<sup>あまぎてつどう</sup> 甘木鉄道は、<sup>しょうわ</sup> 昭和<sup>ねん</sup> 10年（1935）に<sup>た</sup> 大刀洗<sup>ち</sup> 飛行場<sup>ひ</sup> の<sup>ひ</sup> 引き<sup>こ</sup> 込み線<sup>せん</sup> として<sup>けいかく</sup> 計画<sup>とうしょよてい</sup> されました。当初<sup>ろせん</sup> 予定<sup>かも</sup> されていた路線は、<sup>よ</sup> 鴨が<sup>つ</sup> 寄り付<sup>しゅうゆう</sup> なくなり<sup>へ</sup> 収入<sup>しんぱい</sup> が減<sup>そんみん</sup> ることを<sup>はんたい</sup> 心配<sup>はんたい</sup> した<sup>はんたい</sup> 村民<sup>はんたい</sup> に<sup>はんたい</sup> 反対<sup>はんたい</sup> され<sup>はんたい</sup> ました。その<sup>ろせん</sup> 路線<sup>なにえき</sup> は<sup>なにえき</sup> 何駅<sup>なにえき</sup> から<sup>なにえき</sup> どこ<sup>なにえき</sup> を<sup>なにえき</sup> 経由<sup>けいゆ</sup> して<sup>けいゆ</sup> いた<sup>けいゆ</sup> でしょう。

駅から
を
経由



問題 40 <sup>しょうわ</sup> <sup>ねん</sup> 昭和20年 (1945)、<sup>たち</sup> <sup>あらい</sup> <sup>ほんど</sup> 大刀洗など本土に  
<sup>くうしゅう</sup> <sup>ほんかく</sup> <sup>か</sup> 空襲が本格化したのは、<sup>ぐん</sup> アメリカ軍がある  
<sup>しま</sup> <sup>にほん</sup> <sup>きち</sup> <sup>せんりょう</sup> 島の日本の基地を占領したからでした。そ  
<sup>しま</sup> の島はどこでしょう。

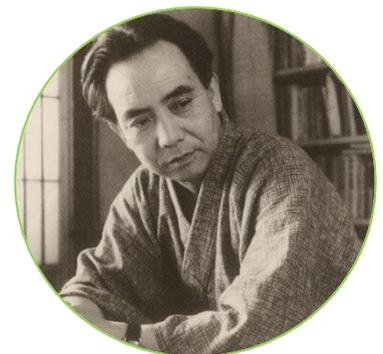


問題 41 <sup>めいじ</sup> <sup>ねん</sup> 明治5年 (1872)、<sup>せいおうしよこく</sup> <sup>みなら</sup> 西欧諸国を見習った<sup>がっこうせいど</sup> 学校制度が始まりましたが、<sup>しよき</sup> <sup>がっこう</sup> <sup>ようす</sup> 初期の学校の様子としてまちがっているのはどれでしょう。

- ① <sup>じゅぎょうりよう</sup> <sup>こくひ</sup> <sup>ふたん</sup> 授業料は国費負担だった。
- ② <sup>がっこう</sup> <sup>かよ</sup> <sup>じよし</sup> <sup>じどう</sup> <sup>すく</sup> 学校に通える女子児童は少なかった。
- ③ <sup>あ</sup> <sup>や</sup> <sup>てら</sup> <sup>たてもの</sup> <sup>いちぶ</sup> <sup>こうしゃ</sup> <sup>りよう</sup> 空き家や寺の建物の一部などが校舎として利用された。



問題 42 <sup>めいじ</sup> <sup>ねん</sup> 明治42年 (1909) <sup>おごおりしまつぎき</sup> <sup>う</sup> 小郡市松崎に生まれた詩人・文学家の野  
<sup>だうたろう</sup> 田宇太郎は、<sup>だい</sup> <sup>じ</sup> <sup>せ</sup> <sup>か</sup> <sup>いた</sup> <sup>い</sup> <sup>せん</sup> <sup>ご</sup> 第2次世界大戦後、<sup>さっか</sup> <sup>ぶんがく</sup> <sup>さくひん</sup> 作家や文学作品のゆかりの地を  
<sup>たず</sup> <sup>ある</sup> <sup>はじ</sup> <sup>なん</sup> 訪ねて歩くことを始めました。それを何というでしょう。



問題 43 昭和22年(1947)3月教育基本法と学校教育法が公布され、学校や教育に関する制度が大きく変わりました。中学校は義務教育となり、小郡市内にも同年4月に3つの中学校が開校しました。立石中、今の大原中と、もう一つは何中でしょう。

中



問題 44 昭和30年(1955)3月31日小郡町、三国村、立石村、御原村、味坂村の1町4村が合併し、新しい「小郡町」が誕生しました。この合併のきっかけとなった昭和28年(1953)に施行された法律は、何というでしょう。

法



問題 45 昭和38年(1963)記録的な集中豪雨により、小郡町内では高原川、草場川、宝満川などが相次いで決壊しました。あふれた4つの川の濁流が合流したことにより大きな被害を受けた地域はどこでしょう。



問題 46 <sup>おごりし</sup> 小郡市は<sup>こうつう</sup> 交通の<sup>べん</sup> 便が<sup>よ</sup> 良いのを<sup>い</sup> 活かして、<sup>にしてつおお</sup> 西鉄大牟田線の<sup>えんせん</sup> 沿線  
<sup>ちいき</sup> 地域を<sup>ちゅうしん</sup> 中心に<sup>かいはつ</sup> 開発が<sup>すす</sup> 進められ<sup>じんこう</sup> 人口が増え<sup>ふ</sup> ました。その<sup>けっか</sup> 結果、<sup>のうそん</sup> 農村  
<sup>がたとし</sup> 型都市から<sup>とし</sup> どのような<sup>か</sup> 都市に<sup>か</sup> 変わった<sup>で</sup> しょう。

都市



問題 47 <sup>むかし</sup> 昔の<sup>おごり</sup> 小郡の<sup>ひとびと</sup> 人々は<sup>いなさく</sup> 稲作を<sup>ちゅうしん</sup> 中心とする<sup>のうぎょう</sup> 農業によ<sup>つ</sup> って<sup>く</sup> ら<sup>し</sup> て  
<sup>ま</sup> きました。これらの<sup>ひとびと</sup> 人々の<sup>あつ</sup> 集まりを<sup>むら</sup> ムラと<sup>い</sup> 言い、<sup>みな</sup> みんなが<sup>たす</sup> 助け<sup>あ</sup> 合  
<sup>う</sup> ための<sup>き</sup> 決まりや<sup>やくわりぶんたん</sup> 役割分担を<sup>き</sup> 決める<sup>た</sup> めに<sup>むら</sup> ムラヨリという<sup>はな</sup> 話し  
<sup>あ</sup> 合いが<sup>おこな</sup> 行われて<sup>い</sup> ました。ムラヨリを<sup>あ</sup> するとき<sup>あつ</sup> みんなを<sup>あ</sup> 集める  
<sup>た</sup> めに<sup>なに</sup> 何を使<sup>つか</sup> った<sup>で</sup> しょう。

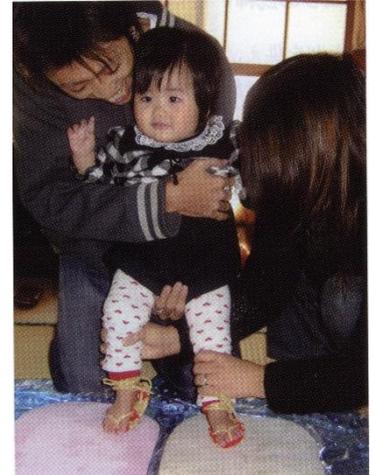


問題 48 <sup>げんざい</sup> 現在は<sup>でんき</sup> 電気の<sup>ふ</sup> 普及によ<sup>よ</sup> って<sup>あか</sup> 夜でも<sup>す</sup> 明るく<sup>おごり</sup> 過ご<sup>せ</sup> ますが、<sup>むかし</sup> 昔か  
<sup>しょうめいぐ</sup> ら<sup>つか</sup> 照明具として<sup>げんりょう</sup> 使われて<sup>なん</sup> いた<sup>ら</sup> う<sup>そ</sup> くの<sup>げんりょう</sup> 原料は<sup>なん</sup> 何<sup>で</sup> しょう。

- ① <sup>き</sup> 木の<sup>ぼう</sup> 棒
- ② <sup>き</sup> 木の<sup>すみ</sup> 炭
- ③ <sup>き</sup> 木の<sup>ろう</sup> 蠟



問題 49 子どもが1歳になった誕生日に、大きな重ね餅をつき小さな草鞋を履いた子どもに踏ませ、健康に育つことを願った行事を何というでしょう。



問題 50 『日本書紀』に出てくる「筑紫小郡」がこの場所ではないかとも言われ、小郡の地名の発生に関係があると思われる国指定史跡は何という遺跡でしょう。



第8回後期 解答用紙		よみがな				点
		名前				
問題 番号	答え	問題 番号	答え	問題 番号	答え	
1	公園	18		35	番号	
2	町	19	公園	36		
3	遺跡	20	山地	37	番号	
4		21		38		
5	番号	22	寺			
6		23	遺跡	39	駅から を經由	
7		24	番号	40		
8	番号	25		41	番号	
9	m	26		42		
10		27	座	43	中	
11	番号	28	番号	44	法	
12		29	番号	45		
13		30		46	都市	
14	番号	31	宿	47		
15		32		48	番号	
16	遺跡	33		49		
17		34	番号	50	遺跡	

◎答えは、漢字で書いても、かなで書いてもどちらでもいいです。

◎解答は例です。他の解答でも正解になる場合があります。

## 第8回後期歴史検定 一般・オープン編 解答例

問題 番号	答え	問題 番号	答え	問題 番号	答え
1	城山公園	18	麻布(や真綿)	35	番号 ③
2	松崎町	19	東町公園	36	治水費(負担)問題
3	小郡若山遺跡	20	耳納山地	37	番号 ①
4	ヤリガンナ	21	筑紫広門(鎮恒)	38	茶や生糸の生産を増やそうと考えたから
5	番号 ③	22	善風寺		
6	とって(把手)	23	津古土取遺跡	39	原田駅から 三国(村)を經由
7	ガラス製の玉	24	番号 ①	40	サイパン
8	番号 ①	25	両郡	41	番号 ①
9	66m	26	三井高(高等学校)	42	文学散歩
10	土師器	27	哥八座	43	宝城中
11	番号 ①	28	番号 ①	44	町村合併促進法
12	横穴墓	29	番号 ①	45	端間
13	灰原	30	高松八郎兵衛	46	住宅都市
14	番号 ③	31	松崎宿	47	太鼓
15	硯	32	樋口甚蔵	48	番号 ③
16	上岩田遺跡	33	矢野一貞	49	もちふみ
17	掘込地業	34	番号 ③	50	小郡官衙遺跡

